

国道復旧にICT活用

釧路あすなろク 施工工程を紹介



日勝峠の復旧工事の現場に
ついての報告を聞く会員

経済研修団体「釧路あすなろクラブ」(中島康秀会長)の9月例会が20日、釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれた。この中で2016年8月の台風で大規模な被害を受けた国道274号日勝峠の災害復旧の現場でICT(情報通信

技術)が活用され、大幅な工程短縮と労働者の削減をもたらした実績が現場責任者から直接紹介された。講師は当時、帯広開発建設部の道路計画課長として災害復旧を担当した瓜生和幸氏(現在帯広開発特定道路事業対策官)が務め、「4

24日間の軌跡」として国道274号日勝峠の災害復旧のあゆみを解説した。

瓜生氏は「危険で現場に入ることでできない時にドローンやICT建機など新しい技術を全面的に活用して調査から施工を行ったことで施工管理日数と施工管理労働者を削減することができた」と報告した。

日勝峠復旧の現場では従来の施工ならば38日を要するところをわずか4日に短縮。労働者も92人を必要とするところを8人に削減した現場があったという。

瓜生氏は「台風被害による国道の災害復旧事業で所要日数が大幅に短縮できたのは新技術の導入と昼夜を問わず、吹雪の中でも復旧工事に携わった現場の人たちの力だった」と述べた。

(伊東義晃)